

《担当者名》教授 / 飯塚 健治
教授 / 泉 剛 講師 / 鹿内 浩樹

【概要】

今日臨床の様々な場面において、検査情報が果たす役割はますます増加し、その内容も極めて多様化している。これら臨床検査を中心とする一連の診断プロセスと病態との関係を総合的に学修する。

臨床検査医学の進歩は、疾患の診断、治療、予後の判定など患者に多くの福音をもたらした。一方、薬剤の開発と進歩に従い、尿中、血中濃度の測定も一部可能になり、薬剤師の果たす役割も多様化するようになった。臨床診断学では、日常頻繁に使用されている臨床検査項目について、検体採取から臨床的意義並びに検査値の基本的な考え方などについて、臓器別疾患ごとに学修する。

【学修目標】

将来の医療現場において必要となる、検査項目の略語など、基本的項目について概説できる。

尿および血液成分の臨床的意義について説明できる。

検査結果から得られる診断、治療、予後についての基本的な考え方を概説できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	臨床検査医学総論 事前に資料を配付する。	検体の取り扱い方法、採血や基準値など臨床検査の基本的な考え方を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E1-(2)- -1~7	飯塚 健治
2	肝、胆、膵の臨床検査 事前に資料を配付する。	肝・胆・膵疾患の診断に必要な臨床検査項目について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E1-(2)- -1~7	飯塚 健治
3	消化器系の臨床検査 事前に資料を配付する。 教科書：p71~73	消化器系疾患の診断並びに機能検査に必要な臨床検査項目について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E1-(2)- -1~7	泉 剛
4	血液疾患の臨床検査 - 1 事前に資料を配付する。 教科書：p23~27,p62~64	赤血球系疾患の診断に必要な臨床検査項目について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E1-(2)- -1~7	泉 剛
5	血液疾患の臨床検査 - 2 事前に資料を配付する。 教科書：p23~27,p116~129	白血球系疾患の診断に必要な臨床検査項目について説明できる。 血液凝固・線溶系異常の診断に必要な臨床検査項目について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E1-(2)- -1~7	泉 剛
6	循環器系の臨床検査 事前に資料を配付する。	循環器系疾患の診断に必要な臨床検査項目について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E1-(2)- -1~7	飯塚 健治
7	神経・筋疾患・自己免疫疾患の臨床検査	神経・筋疾患、自己免疫疾患の診断に関する臨床検査項目について説明できる。	泉 剛

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	事前に資料を配付する。 教科書：p72～73,p132～185,p153～160	関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E1-(2)- -1～7	
8	尿・体液の臨床検査 事前に資料を配付する。	尿検査、腎機能検査並びに体液に関する臨床検査項目について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E1-(2)- -1～7	飯塚 健治
9	呼吸器系の臨床検査 事前に資料を配付する。	呼吸器系疾患の診断に必要な臨床検査項目について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E1-(2)- -1～7	飯塚 健治
10	内分泌・代謝異常の臨床検査 事前に資料を配付する。 教科書：p99～106,p124～132,p166～168	内分泌・代謝異常の診断に必要な臨床検査項目について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E1-(2)- -1～7	鹿内 浩樹

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

期末定期試験（100％）を以て合否の判定を行う。

【教科書】

「知っておきたい臨床検査値」 第2版 日本薬学会編（東京化学同人）

【参考書】

「病態臨床検査」京都廣川書店
「標準臨床検査医学」医学書院
「医学生のための検査医学」杏林書院
「異常値の出るメカニズム」医学書院
「病気がみえる」 Medic Media
「病気がみえる」 Medic Media
「病気がみえる」 Medic Media
「病気がみえる」 Medic Media
「病気がみえる」 Medic Media
「病気がみえる」 Medic Media
「病気がみえる」 Medic Media
「病気がみえる」 Medic Media

【学修の準備】

予習として、シラバスに記載されている次回の講義範囲について教科書やこれまでに使用した資料を読み、疑問点などをまとめておくこと（40分）。

授業終了時に練習問題等を課した場合は、次回の授業までに解答しておくこと（50分）。

復習として講義終了後早期に資料などをもとに内容を再確認するとともに（50分）、日常においても専門用語の内容や意味についてあらかじめ理解しておくこと（20分）。

【関連するモデルコアカリキュラムの到達目標】

E1 薬の作用と体の変化

(2) 身体の病的変化を知る【病態・臨床検査】

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

- 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。
- 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域および国際視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。

【実務経験】

飯塚 健治(医師)、泉 剛(医師)、鹿内 浩樹(薬剤師)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での医師、薬剤師としての実務経験をもとに、臨床に即した検査医学に関する知識を講義する。